

看護の実習記録の表現の分析

—留学生への支援のために—

山元一晃・加藤林太郎（国際医療福祉大学）

<共同研究者>浅川翔子（慶應義塾大学）

1. 背景と目的

看護の学位取得を目指す留学生は、2016年の時点で少なくとも6大学、3短期大学にいたることが私立大学を対象とした調査で分かっている（日本私立看護系大学協会 2016）。このような背景を踏まえ、発表者らは、看護を目指す留学生のためのライティング教材を開発している（山元・加藤 2018 など）。開発にあたって、語彙や表現などに関する実証的な研究の裏付けの必要性を感じるようになったが、実習記録など一般的なアカデミック教材では扱われない看護の実習に特有の課題について、書き方を指導するための知見は少ない。実習記録の言語面に着目した研究としては、李（2015）や山元・浅川（2019）などがある。前者は、実習記録に用いられる専門用語リストの作成を目指したものであり、ライティング教材に活かすことは難しい。また、後者は語彙の分析をしており、品詞の分布などは明らかになっているものの、具体的に教材として活かすためには、より詳細な分析が必要だと考えられる。そこで、本研究では、看護を学ぶ留学生のためのライティング教材に活かすために、実習記録の表現を分析することにした。

2. 分析の対象と方法

山元ほか（2018）を参考に、2017年までの10年間に出版された教材から、①実習を想定したものであること、②手本となる実習記録が含まれていること、③領域別に分かれていること、を考慮に入れて分析対象とする教材を選定した。その結果、以下の1点が該当した。

任和子ほか（2015）『領域別看護課程展開ガイド』照林社。

上記の書籍は、「成人看護学」、「老年看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「精神看護学」の5領域に分かれており、それぞれの領域について「アセスメント」「関連図」「共同問題・看護診断リスト」「看護計画」「実施・評価」「サマリー（看護要約）」の手本が示されている。今回は、「アセスメント」およびそれを踏まえて記述されると考えられる「看護計画」を対象とし、「アセスメント」および「看護計画」に含まれる文を全て抽出した。1文の認定については、読点「。」があること、または、改行があることとした。

「アセスメント」として示されている手本は、「情報（S・O）」と「情報の解釈と分析（A）」に分かれており、「情報（S・O）」はSとOにそれぞれ分かれている。これらは、経過記

録の様式の一つである SOAP⁽¹⁾の S データ（主観的データ）、O データ（客観的データ）、A データ（アセスメント）に該当すると考えられ、S データと O データに基づいて A データが記述されている。「アセスメント」においては、これらに分けて分析を行った。

また、「看護計画」は「C-P（観察計画）」「C-P（ケア計画）」「E-P（教育計画）」に分かれている。「看護計画」においては、これらに分けて分析を行った。

3. 「アセスメント」

該当する文は、S データで 82 文、O データで 310 文、A データで 229 文あった。それぞれの特徴を文末形式などに着目しながら分析する。

3-1. S データ

主観的データである S データは、(1)のように、全ての文で患者の発言を直接引用して書かれている。

(1) 「ちょっとお腹のへん痛い」

全ての文がかぎ括弧（「」）を伴って書かれている。患者の発話をそのまま記述しているため、「よ」などの終助詞を伴っていることもある。患者の発言に不足する内容がある場合には、(2)のように括弧を用いて補足している。

(2) 「(入院中の食事は) 水っぽいものだから、わざわざ水分はとっていない」

また、話者が患者以外の場合も同様に括弧を用いて補足している。(3)に例を示す。

(3) (母)「担任の先生には学年の初めに体調のことはお話しするようにしています」

その他には、明確な特徴はみられなかった。

3-2. O データ

客観的データである O データは箇条書きで患者の情報が書かれており、それぞれの文を観察すると、体言止めになる文と、そうでない文とが混在している。以下にそれぞれ概観する。

3-2-1. 体言止めとなる場合

体言止めとなる場合は 310 文中 73 文であった。年齢、性別、身長、体重などの基礎的な情報は(4)のように客観的データを簡潔に示す体言止めの文になる。

(4) 57歳、女性。

補足情報がある場合には、(5)のように、括弧内に補足を加えたり、(6)の下線部のように、句点（、）やスペースを入れて補足する。補足する場合も、体言止めとなる。

(5) 身長160.0cm、体重55kg（半年間で10kg体重減少）。

(6) 視力：右0.3・左0.2、眼鏡を使用。[下線は筆者]

また、検査結果などの数値は、表で示される場合と、(7)のように列記される場合とがある。

(7) 肺活量2,530mL、%VC102.4%、FEV_{1.0}89.84%、SPO₂98%。

排便などの回数も、(8)のように体言止めとなる。補足がある場合は、(9)の下線部のように補足するか、(10)のように、補足する。

(8) 排尿5～6回/日、排便1回/日。

(9) 排尿6回/日、排便は胎便で4回/日。[下線は筆者]

(10) 歯磨きは1日4回、部分義歯使用中、う歯なし。[下線は筆者]

症状や問題などの有無が重要になる場合も、(11)のように体言止めで書かれることが多い。有無を表す52文のうち40文（76%）が体言止めだった。

(11) 室内歩行時ふらつきなし。

また、(12)や(13)のように、服薬している薬や、行動などを列記する場合も体言止めとなることが多い。

(12) リスパダール（1mg）2錠/日・分2、リントン（2mg）2錠/日・分2、タスモリン（1mg）2錠/日分2、ウブレチド（5mg）1錠/日・分1朝。

(13) 平日の日課7時：起床～朝食8時：登校12時：給食15時：下校16時：塾・スイミングスクール（各週2回）18時：宿題・ゲーム（妹と）19時：夕食（平日祖父母宅）20時：入浴（母・妹といっしょ）22時：就寝

3-2-2. 体言止めとならない場合

体言止めとなる場合については、ある程度のルールがみられるが、体言止めとならない場合については、明確な傾向は観察されない。例えば、以下のように患者のスケジュールを明記する場合でも、(14)のように体言止めとなったり、(15)のように体言止めとならなかったりする。

(14) 学習塾（月・木）。

(15) スイミングスクール（火・金）に通っている。

3-3. A データ

アセスメントにあたる A データは、S データおよび O データを根拠にした考察や解釈が記述されている。ほぼ全ての文が、動詞や形容詞などの用言で終わる完結した文となっている。また、複数の文にまたがって、根拠と最終的なアセスメントとが明示されている。

「また」「そのため」のような接続表現、「以上のように」のようなメタ表現が使われることもある。ただし、その使用は書き手によって異なる。ほぼ全ての項目で、最後の 1~2 文に結論が示されている。(16)に例を示す。

(16)

術後は麻酔の影響で呼吸筋運動の低下や、気道分泌物が貯留し、一時的に呼吸機能の低下が考えられる。

さらに術後の創痛のため呼吸運動が妨げられ、十分な換気ができず、無気肺など呼吸器合併症のリスクが増し、回復のための全身への酸素供給が不十分となる。

(中略)

侵襲が強い傷害期の時期には生体反応が活発でエネルギーの消耗も大きく、セルフケアが不足している部分は援助する必要がある。

以上のことから、無気肺、術後出血、深部静脈血栓症、セルフケア不足を問題として援助する必要がある。

最後の結論の箇所では「必要がある」「～ていく」など、必要性を延べる表現が多く用いられていた。パターンを明らかにするには、より詳細な分析が必要であるが、専門用語のほか小森・三井（2016）などで扱われている学術的な文章の記述に必要な知識を抑えることが A データの記述では重要だと考えられる。

4. 看護計画

「O-P（観察計画）」「C-P（ケア計画）」「E-P（教育計画）」に分かれている。O-P は 140 文、C-P は 124 文、E-P は 97 文あった。O-P は、ほとんどの項目（115 文、82%）が体言止めとなっており、それ以外の 25 文は、終助詞「か」を伴った文になっている例がほとんど（24 文）で、残りの 1 文のみ動詞文であった。「O-P」の記述については、観察する項目を名詞で書くことが基本であるといえる。(17)~(19)に例を示す。(17)のように、端的に観察項目を記述し、括弧に詳細に記述する場合、(18)のように、関連する複数の観察項目を併記する場合、(19)のように、詳細な情報も含めて箇条書きで示す場合などがある。

(17) 1. バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸数、呼吸状態、S p O₂、意識状態）

2. 出血量（ドレーン排液、ガーゼ汚染）

3. 呼吸状態（リズム、深さ、左右差、胸郭の動き、肺音）

(18) 1. 胸部・呼吸状態呼吸状態（口すぼめ呼吸の有無）、呼吸回数、吸気と呼気の

比、呼吸の深さ、呼吸困難の有無や程度、咳の有無や程度（湿性、乾性）、痰の有無や程度、性状、量（増加や色の変化）、樽状胸郭の有無。

- (19) ●呼吸音の減弱または消失や長さ。
●呼吸音の左右差や部位、異常呼吸音や副雑音の有無。
●S p O₂の変化。

また、「か」を伴う文は、原則的に観察した結果の候補が想定される場合に用いられるようであり、「どう」「なに」などを伴う文は少なかった（2文）。「か」を伴う文の例を(19)に示す。(19)では、結果の候補として、患者と同居する者が想定される。

- (19) 6. 退院後の生活 誰が食事の準備をするのか。

O-Pでは、基本的には名詞で記述し、観察した結果がいくつかの選択肢に限られる場合には終助詞「か」を伴う文になるといえる。

C-Pでは、ほとんどの場合(118文、95%)、述語が動詞である。述語動詞として3文以上で使われる動詞は、「する」(12文)、「行う」(10文)、「実施する」(8文)、「尋ねる」(6文)、「促す」(5文)、「介助する」(5文)、「伝える」(5文)であった。なお、「する」は、「ようにする」が6文を占めていた。「行う」「実施する」「介助する」のように看護師の行為を表す動詞も多いが「促す」「伝える」など患者への働きかけを示す動詞もある。

E-Pでも、ほとんどの場合(89文、92%)、述語が動詞である。述語動詞として3文以上で使われる動詞は「説明する」(23文)、「指導する」(13文)、「行う」(8文)、「伝える」(4文)、「すすめる」(3文)、「吐く」(3文)であった。「説明する」「指導する」で、動詞文の40%を占めていた。教育に関わると考えられる「伝える」「すすめる」と合わせて、よく使う動詞として扱う必要があるだろう。

述語が動詞の文を多く含むC-PとE-Pを比較すると、C-Pは述語として用いられる動詞の種類が多く(58種類)、E-Pは比較的少ない(28種類)。また、上位の動詞である「する」「行う」「実施する」は、動作を表す名詞が伴うことで意味をなす。そのため、C-Pでは、ケアに関わる多様な動詞や名詞を覚えておく必要があると考えられる。

5. まとめ

本稿では、看護の実習記録における言語的な特徴について概観した。「アセスメント」では、Sデータ、Oデータ、Aデータにおいて、その言語形式に特徴があることが分かった。Sデータは、患者や患者の親族の発言を直接引用する形で書かれている。一方Oデータは体言止めと、そうでない文が混在しており、前者については、「年齢、性別、身長、体重などの基礎的な情報」「排便などの回数」を記述する場合や「服薬している薬や、行動など」を列記する場合に体言止めとなり、それ以外の場合には、体言止めとならないことが分かった。Aデータは、原則として体言止めにはならず、用言で終わる完結した文で書かれており、根拠と結論が明示されていることが多く、結論部分では「必要である」などの文末形式で必要性が示されていることが多かった。

「看護計画」の O-P (観察計画) では、80%以上の文が体言止めで書かれていた。残りの文は、1 文を除いて終助詞「か」を伴う文となっていた。また、C-P、E-P では述語が動詞になっている文がほとんどであった。C-P は述語として用いられる動詞の種類が多かった。

これらの知見は、留学生が実習記録を書く際の参考になると考えられる。今後は、これらの知見を留学生への教育や教材開発に活かしていきたい。

本稿の課題としては、(1) データが 1 冊のテキストに偏っていること、(2) 文末形式のみに注目したためそのまま教材に活かすのが難しいこと、が挙げられる。(1) については、流通しているものではデータを増やすことが難しいため、看護師に執筆を依頼するなどの方法が考えられる。(2) については、コロケーションなども考慮した分析が必要となる。山元・浅川 (2019) で抽出された特徴的な動詞を中心に、共起する語の調査なども必要である。

注

(1) 「看護課程の第 4 段階である実施において用いられる経過記録の様式の一つ。問題志向型看護記録において開発され、① 主観的データ (S) subjective data: 患者の訴え、② 客観的データ (O) objective data: 観察、検査等、③ アセスメント (A) assessment: これらのデータに基づく記録者の査定、評価、④ 計画 (P) plan に分けて記録する。」(五十嵐隆ほか (編) (2013) 『看護学大事典』, メジカルフレンド社.)

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP19K00744 の助成を受けたものです。

参考文献

- (1) 山元一晃・浅川翔子 (2019) 「手本として示される実習記録の語彙の分析」『言語資源活用ワークショップ 2019 発表論文集』 pp. 258-272.
- (2) 山元一晃・加藤林太郎・浅川翔子 (2018) 「看護師・看護学生のためのライティングテキストの現状と課題: 留学生のためのライティング教育への応用を視野に」『第 10 回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会抄録集』 p. 50.
- (3) 山元一晃・加藤林太郎 (2018) 「看護師を目指す留学生のための実習に即したライティング教材の開発」『2018 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp. 444-449.
- (4) 李在鎬・平尾明美・久保圭・平野通子・春名寛香 (2016) 「看護学生の実習記録から抽出した専門語 600」『2016 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp. 233-234.
- (5) 林琳 (2018) 「看護記録語彙の使用実態と特徴分析-看護師国家試験語彙・日本語能力試験語彙との比較を中心に-」『日本語/日本語教育研究』 9, pp. 237-244.